



トピックス

日本蜘蛛学会第56回 大会印象記

新谷花梨

・初めに

皆様こんにちは。今年度の学会印象記を書かせていただくことになりました。山形大学大学院修士2年の新谷花梨と申します。お話をいただいた時には緊張のあまり心臓が止まるかと思いました。何せ要旨や論文以外で公的な文書を作成するのは初めてでして。拙い文面で申し訳ありませんが、お付き合いいただければとても幸いです。

・大会に関して

2024年の第56回大会は、兵庫県三田市。「企画展 クモ展—多様な8本脚たちの世界—」が開催されている人と自然の博物館にて、オンラインと対面の両方を使用したハイブリッド方式で開催されました。コロナウイルスも収束して時間が経過。当初は対面メインのオンライン併用の予定でしたが、大型台風でオンラインメインに変更になりましたね。交通機関の運休等で泣く泣くオンラインに変更なされた方も少なくはなかったでしょう。かく言う私も

そのうちの1人で、出発前日まで悩みました。対面参加なさった皆様、運営の方々は、大会の後に風邪などは引かずに済んだでしょうか。前日まで開催された京都での国際昆虫学会から連続して参加なさった方の中にはいらっしゃるかと思いますが、大丈夫だったでしょうか。洪水や交通麻痺が頻発していた緊急事態の中でも、直前に大会形態が変更しても無事に学会が終了したのは、特に運営の方々のおかげだったと考えております。運営担当の皆様には、この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

・1日目, 8月31日

全ての発表内容の詳細や感想等についてはページが大変なことになってしまいそうなので控えさせていただきます。ご了承ください。

9時30分から大会が開始されました。最初の発表群は、例年通り、学生発表賞対象の一般講演。対象種が様々であることはもちろん、行動や分類など多様かつ今の科学には欠かせないような研究内容と結果で、どの発表もとても勉強になりました。日本蜘蛛学会と聞いただけではついつい頭から抜けがち(と書いてしまうと失礼ですよね、申し訳ありません)、クモ目以外の内容も写真もとても素敵でした。因みにこの段階でオンライン参加者は55名。zoomのサーバーは相変わらず強くありがたいと

日本蜘蛛学会第56回大会 2024年8月31日～9月1日



オンライン会場：兵庫県立人と自然の博物館（ひとはく）

思いながら、1回休憩を挟んだのちに鶴崎先生からお昼休憩を挟んだ後には加村先生から一般講演が続きました。濃密な分類の発表に頭を浸らせながら、その後、zoomのブレイクアウトルーム機能を用いて実施されたポスター発表は、奇数番号が前半コアタイム、偶数番号が後半コアタイムとなっていました。私は偶数、後半にポスター発表をさせていただきましたが、想像以上にたくさんの方に見ただけで、緊張した半面とても幸せでした。質問部では様々なお声を頂き、とても勉強になりました。発表時や発表後もお伝えしましたが、いただいた内容をさらに組み込んで考えて(シミュレーションをまわして)行こうと考えております。また、参加者として、現地であれば全部拝見させていただくつもりでしたので、ポスター発表は一般講演以上に台風が恨めしく思えました。ポスターの後はシンポジウム。今回の内容は大会会場である博物館に関する内容、「博物館標

本のデジタルアーカイブかと活用について」でした。以前から様々な媒体で流れていた博物館標本の話でしたが、次の世代へ何をいかにかどう残すかより詳細な内容で紹介していただきました。シンポジウムの後は総会と学生発表賞の発表。この時点でオンライン参加者は43名、会場には19名いらっしゃったようですね。学生発表賞はオオムカデの発表をなさった宇野さんでした。

・2日目、9月1日

10時、新海先生から一般講演が開始されました。田中先生のオオヒメグモのお話を聞くことができなかつたのはとても残念でした。是非改めて拝見拝聴させていただきたいです。円網やシカとダニたちに頭を巡らせながら小休憩を挟み、2日目後半の一般講演。荒川先生から開始された今大会最後の一般講演は鈴木佑弥さんの講演で終了しました。

・今回の学会を通して

毎年考えているのですが、自分の目に録画機能がない事や記憶力の悪さが恨めしく感じてしまいます。すべての発表を何度も繰り返し拝見させていただきたいものですが、夢で追体験できないものでしょうか。どの発表も、もっと聞きたい、詳しく聞いてみたいと思う内容や、自分の研究内容を改めて考える手掛かりになる内容ばかりでした。特に新海先生の50年間の個体数密度の調査は、題名の通りですが調査期間の長さにとっても驚きました。複数人で行えばさらに長い期間実施できるかもしれませんが、調査方法の統一は容易な一方、調査者によって見る場所や反応速度、見る目に違いが出てしまいそうですね。是非やってみたいと企んでおります。また、皆様も経験なされた感覚かと思いますが、欲しい書籍や読みたい論文もさらに増えてしまっ大変ですね。

別の話にはなりますが、ブレイクアウトルームに限らずzoom、オンライン参加というのは、やはり反応が直接見えないというのは発表側としても参加側としても不安になってしまいますね。とはいえ全員がカメラオンにするというのは回線面でも参加場所の面でも難しいと思いますし。今後ハイブリット（ハイフレックス）開催がこの学会に限らず他の学会でも実施されるのであれば、慣れなければいけないでしょう。頑張りどころですね。コツがあれば是非教えていただけると幸いです。

次回の大会は、東京都の墨田区江東橋にある東京環境工科専門学校で9月27日・28日に開催予定とのことです。来年こそは皆様とお会いできますよう、台風も地震も病の流行もない事を祈っています。

三重クモ談話会閉会のお知らせ

三重クモ談話会元会長 橋本理市

県内会員の高齢化により活動継続が困難な状況から、三重クモ談話会は2024年6月30日をもって閉会いたしました。

本会は1973年の設立以後、三重県におけるクモ類の研究発展と一般へのクモ類の啓発、会員相互の交流を主な目的として活動してきました。この間、皆さまには51年に亘り、物心両面において多大のご支援、ご協力をいただき、お陰様で大きな成果を上げることが出来ました。ここに厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

会としての活動は一旦これをもって終了しますが、研究そのものは個々の会員が独自に学会員として、また、他のクモ類同好会員として続け、研究発展に寄与していくこととなりますので、今後ともよろしく願いいたします。いつかまた新しい研究者が会を組織し、改めて研究会を再開してくれることを期待しています。そのときにはこの三重クモ談話会の半世紀に及ぶ活動の成果がまた生かされ、新たな発展へとつながることを念願しています。

後の世代の研究者たちに向けてエールを送ると同時に、今まで支えていただいた皆様への感謝を述べ、三重クモ談話会の閉会通知とさせていただきます。



採集情報

日本各地で採集された稀産種や、都道府県初記録、島初記録、南限更新、北限更新など分布上の重要情報について掲載する。これを読み、「私もこんな種類を採集しているぞ」という方はその情報を是非お寄せいただきたい。

【このコーナーに掲載する記録は、証拠標本か、同定のキーとなる特徴がはっきりと撮影されている写真かのどちらかがあるものに限らせていただきます。目撃談のみのものにつきましては取り上げません。また、幼体の記録についてはいろいろと議論のあるところですが、とりあえず現段階では、投稿があれば参考記録として掲載を継続させていただきます。しかし、**幼体での記録は誤同定の危険が大きいですので、可能な限り避けてください。**】

エチゴヤマヤチグモ 福島県二本松市日山山頂 1050malt. 2024年5月21~22日 2♂ 芳賀馨採集・松田まゆみ同定

サダモトヒメグモ 広島県広島市佐伯区石内北 2023年11月29日 1♀ 本多美樹採集・鈴木佑弥同定

サトヒメグモ 広島県広島市佐伯区石内北 2023年12月27日 1♀ 2024年7月18日 1♂ (採集時亜成体, 7月26日に脱皮, 成体) 本多美樹採集・鈴木佑弥同定

シノノメトンビグモ 広島県広島市安佐南区大塚西 2023年11月8日採集, その後3回脱皮して2024年6月17日に成体 1♂ 本多美樹採集・鈴木佑弥同定

チリコモリグモ 埼玉県秩父市大滝 (笠取山)

2023年6月21日 1♀ 荘司康治郎採集・同定

エゾコモリグモ 埼玉県秩父市大滝 (笠取山) 2023年6月21日 1♀ 荘司康治郎採集・同定

ハタハリゲコモリグモ 埼玉県秩父市大滝 (笠取山) 2023年6月21日 1♂1♀ 荘司康治郎採集・同定

カワベコモリグモ 埼玉県秩父市下影森 (荒川) 2022年3月12日 2♂1♀ 荘司康治郎採集・同定



カワベコモリグモ

アカマツハタケグモ 山梨県北杜市高根町清里 2018年9月28日 2♀ 荘司康治郎採集・同定

キタヤミサラグモ 山梨県北杜市大泉町西井出 (美し森) 2020年8月28日 2♂ 荘司康治郎採集・同定

タテヤマヤマヤチグモ 群馬県前橋市富士見町 (赤城山) 2018年10月26日 1♀ 荘司康治郎採集・同定

アカギメキリグモ 山梨県北杜市大泉町西井出 (美し森) 2021年6月7日 2♀ 荘司康治郎採集・同定

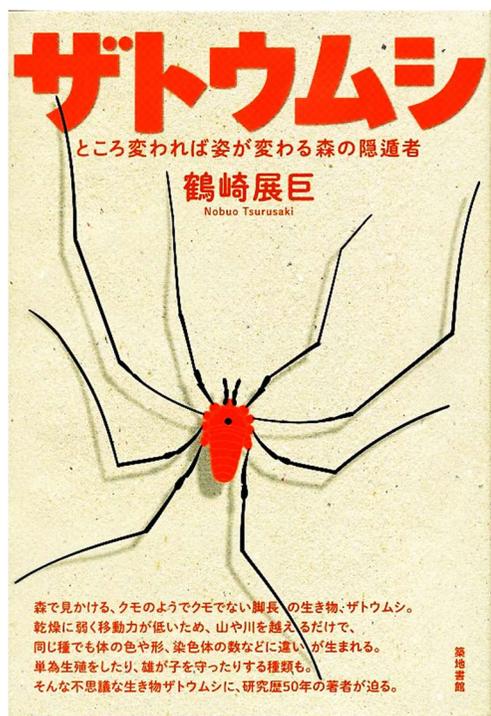
オノアカムネグモ 山梨県北杜市大泉町西井出 (美し森) 2021年6月7日 1♂1♀ 荘司康治郎採集・同定

タマヤミサラグモ 山梨県大月市猿橋町(倉岳山) 2020年7月11日 1♀ 荘司康治郎採集・同定

ウエノフクログモ 秋田県仙北市田沢湖生保内 2020年6月23日 1♀ 荘司康治郎採集・同定

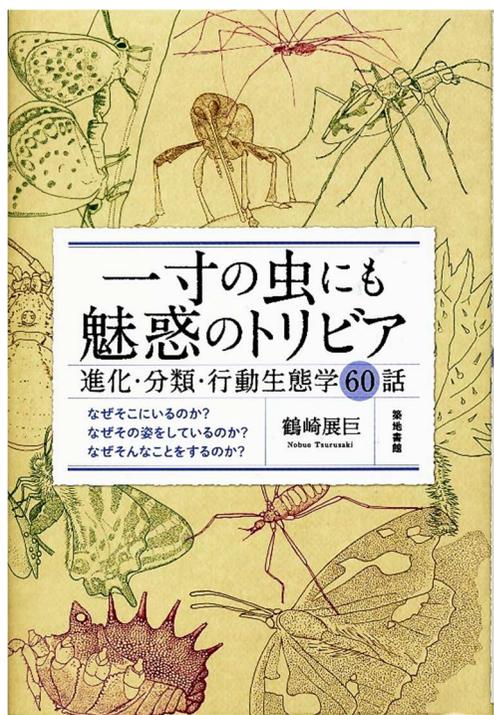
ヒトリコゲチャハエトリ 北海道北見市端野町二区 2024年8月16日 1♂ 眞如友晃採集・安齊(大熊)千晶同定・須黒達巳同定確認

(新海 明・谷川明男集約)



予告

2025年度大会は、2025年9月27日・28日の両日、東京環境工科専門学校（東京都墨田区）[最寄駅：JR 総武線・東京メトロ半蔵門線錦糸町駅]にて、加藤輝代子さんを中心として開催する予定です。



↑一寸の虫にも魅惑のトリビア

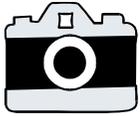
鶴崎展巨著

築地書館 ISBN: 978-4-8067-1668-6
2200円+税

←ザトウムシ

鶴崎展巨著

築地書館 ISBN: 978-4-8067-1667-9
2400円+税



ギャラリー



『なんか かわいい』

Eriovixia laglaizei オヒキオニグモのオスの顔。2024年10月にタイのマハ・サーラカームで見つけた個体。眼域の下にある突起が鼻のように見えてなんともユーモラスでかわいい。

この種の腹部後方にはしっぽのような突起があることから、オヒキオニグモという和名がつけられている。ずいぶん前に香港で見つけたものでも腹部後方には「しっぽ」があり、面白いなあと思っていた。しかし、タイで見つけたものにはこの「しっぽ」がない。また、シンガポールのクモ図鑑やボルネオ島のクモ図鑑に出ている写真でもこの「しっぽ」はない。オスの触肢形態やメスの外雌器形態ではどう見ても同種と思えるのだが、この「しっぽ」の有無の違いがずっと心にひっかかっている。この違いは地理的な変異なのか、あるいは触肢や外雌器では見分けのつかない別種なのだろうか。

撮影・コメント：谷川明男

遊絲原稿送付先

〒192-0352 八王子市大塚 274-29-603
新海 明まで

E-mail では dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp (谷川明男) まで

遊絲の発行は、年2回(5月、11月)の予定。
投稿締切は発行月の前月末日(4月末と10月末)です。

日本蜘蛛学会

homepage : <http://www.arachnology.jp/>

Atypus 閲覧のパスワードは ■

会費の納入、住所変更などは会員マイページでのご操作をお願いいたします。

年会費 正会員 7000 円 (学生は 3500 円)

会長・幹事

会 長

中田 兼介

庶務幹事

桑田(楠瀬) 隆生

繁宮 悠介

会計幹事

高田 まゆら

編集幹事

鈴木 佑弥 sasaganiya1206+at+gmail.com

図書幹事

原口 岳 h1r1g3ch2+at+gmail.com

遊絲 第 55 号

2024 年 11 月 25 日 発行

編集者 新海 明, 谷川明男

発行者 日本蜘蛛学会 会長 中田兼介
